

ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2021.
11月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー（株）です。

皆様こんにちは、日本風力エネルギー(株)です。暦の上ではすっかり冬となり、日脚も短くなってきました。いち早くクリスマスの準備に取りかかっている方もいらっしゃるかもしれませんね。今号では約120カ国・2万5,000人が一堂に会する気候変動対策会議「COP26」の解説など、最新ニュースを中心に送らせていただきます。



注目CONTENTS

- ・公立鳥取環境大学 重田祥範准教授 風力発電に関するインタビュー
- ・「今月の風車ニュース」ヴェーナ・エナジー、とっとりSDGsパートナーに参画 ・「注目のエネルギーニュース」COP26 について



弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸いです。

お問い合わせ

日本風力エネルギー株式会社 鳥取事業所（鳥取風力合同会社）

〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見櫛中154-2 隼LAB 2-A
TEL. 0858-76-0700 FAX. 0858-76-0701



(仮称)鳥取風力発電事業 専用サイト：<https://project.venaenergy.co.jp/tottori/>



注目のエネルギーニュース



気温上昇を1.5°C抑えるための施策が重点課題

「COP26」が開催

10月31日から11月12日にかけて、イギリスのグラスゴーにて開かれた「COP26」。そもそもCOPとは国連気候変動枠組条約（UNFCCC）を批准するすべての締約国が参加する会議、かつ最高意思決定機関で、今回は26回目の開催にあたるためCOP26と呼ばれており、日本からは、関係省庁で構成される日本政府代表団が交渉に参加します。



議長が掲げた重点課題は「脱炭素社会の実現」

COP26議長が掲げている重点課題は、気温上昇を1.5°C以下に抑えるため「石炭の段階的廃止」、「EV（電気自動車）への切り替え」、「森林破壊の食い止め」の3つを加速化することと、「再生可能エネルギーへの投資奨励」です。また、気候変動対策への資金も一つの重要な目標として掲げ

気候変動対策はグローバルに対応しなければ解決しない

気候変動は世界的な課題のひとつであり、特定の国や地域だけで解決できるものではありません。そのため各国が課題・取るべきアクションについての認識を共有し、最適な対策を打ち出さなければなりません。

COP26のCO2排出制限とガソリンや灯油などのエネルギー価格

コロナ禍が収束を見せる中、経済活動が回復している欧米では、エネルギー需要拡大と価格急騰が起きています。我が国でも、ここ数週間、ガソリン・灯油価格の値上がりが続いています。これは、COP26で提唱されているCO2排出制限の圧力も一因しており、産油国は、原油、天然ガスや石炭の増産を見送っています。今後も、この状況が続き、エネルギー価格は高止まりとなると見込まれます。エネルギー問題と気候変動問題とが深く関係していることを示しています。



(仮称)鳥取風力発電所建設に関するご意見、お問い合わせをお待ちしております

「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは様々な方からのご意見を頂きながら、進めてまいります。専用サイトもございますので、ぜひ皆様のご意見をお寄せください。

以下のQRコードをカメラで読み取っていただいてもサイトへアクセスができます。



サイトのアクセスはこちらから ▶ <https://project.venaenergy.co.jp/tottori/>



「持続可能な鳥取」を目指す一員に

ヴィーナ・エナジーが「とっとりSDGsパートナー」に参画

NEWS 1

ヴィーナ・エナジーは、10月21日より「とっとりSDGsパートナー」に登録、参画しました。

同制度はSDGsを鳥取県とともに推進し、登録者と連携しながらSDGsゴール達成に資することを目指すものです。2021年10月末時点で383者の県内企業、個人、団体が参画しており、登録者の業種は多岐にわたります。登録者はセミナーなどを通じて新たな関係性を構築し、業種・業態を超えた活動も期待されています。ヴィーナ・エナジーは県内の様々な登録者とともに情報交換や協業を図りながら、「持続可能でよりよい鳥取県」を実現する一助を担いたいと考えております。



TOTTORI SDGs

とっとりSDGs公式サイト

<https://www.tottori-sdgs.com/>

持続可能な脱炭素社会の実現を目指す企業グループ

NEWS 2

「日本気候リーダーズ・パートナーシップ」に加盟しました！

10月19日、ヴィーナ・エナジーは「日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP)」に加盟いたしました。

JCLPは「気候危機の回避へ速やかな脱炭素社会への移行を実現し、1.5℃目標の達成を目指す」を行動目的とし、政策提言をはじめ、持続可能な脱炭素社会の実現に向けた様々な取り組みを進めています。加盟企業201社の総消費電力量は約61.38Twhにおよびます。

また、JCLPは2017年より国際非営利組織Climate Groupの公式地域パートナーとして、RE100、EV100、EP100イニシアチブの日本企業の参加を支援しています。



日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP) 公式サイト

<https://japan-clp.jp/>

「ふうしゃだより」がWEBでも読めるようになりました



2021年4月以降に配布した「ふうしゃだより」が、PDF形式で閲覧できるようになりました。PC、スマホ、タブレットからご覧いただけます。



スマホやタブレットから、こちらのQRコードを読み込んでアクセスできます。



ふうしゃだよりWEB版はこちら <https://project.venaenergy.co.jp/tottori/fuushadayori>

Interview theme

風力発電 Q&A



風力発電に関する素朴な疑問について専門家に解説いただきました。

公立鳥取環境大学で教鞭を執る傍ら、風力発電所の運転実績や気象データから風況特性・運転特性を解析した論文を発表するなど精力的に研究を続けている重田先生。
“風”に深い造詣をお持ちの先生に、風力発電に関する疑問に答えていただきました。

今回のインタビューは

公立鳥取環境大学
環境学部 准教授

重田 祥範先生

専門は局地気象学・生気象学。
都市ヒートアイランド現象の調査
や局地風観測など、フィールド
ワークを得意とする。



Q1.

風力発電に適した地形について教えてください。

- A** ①風が安定的(向きや強さ)に得られる
②大気の安定した地域

風力発電には、年間を通して適度な風(おおむね風速6m/s以上)が吹いていることが必要です。ただし、雨や台風の日には強風が吹きやすく、風車の故障を防ぐために風速25m/sを超えると羽の回転を強制停止し、発電量は0になってしまいます。そのようなロスを抑えるためにも、風車を設置する場所はなるべく雨の少ない地域が望ましいのです。



Q2.

鳥取の風はどのような特徴がありますか？

- A** 鳥取の風環境の特徴は安定的な風が得られて、台風が上陸しにくいと言えます。

鳥取県は日本海側気候で、10月から4月にかけてはとくに強い風力を得られます。風は山や建物といった障害物、地形などの地理的影響を受けて風向が大きく変わりますが、鳥取県は風況が安定しているエリアが多いのも特長で、年間を通して安定的な稼働が見込めると考えられます。また台風直撃が少なく、強制停止するリスクを抑えやすいと言えます。

Q3.

風力発電で得られる発電量について教えてください。

- A** ていねいな風況調査を、それに適した対策によってロスのない発電量を得られます。

風工学ではいくつかの試算方法がありますが、山岳部では風向偏差(風の乱れ)が大きいことから理論値と乖離する可能性が高く、ていねいに風況調査を行なうことが大切です。風力発電は出力調節ができず、風が強い(電力導入量が増える)ほどトラブルリスクとそれに伴う損失も増加するからです。(仮称)鳥取風力発電事業の建設予定地は条件が良い場所と考えられますが、実地調査をしっかり行なって精度の高い出力予測・対策を講じることで、よりロスを抑えた発電が可能になるでしょう。

Q4.

他の再生エネルギーと比べ、風力発電は効率が悪いのでは？

- A** 再生可能エネルギーの中で、発電効率とコストのバランスが一番高いと言えます。

再生可能エネルギーの中で、もっとも発電効率が高いのは水力発電で80%とされています。しかしダム建設には広大な土地と大規模な建設工事が必要で、非常にコストがかかります。一方、太陽光発電は一般住宅の屋根にも取付けられるほど容易に建設できる一方、夜間や天気の悪い日は発電できないため、発電効率は約20%と計算されています。風力発電の発電効率は約25~40%で24時間発電可能。比較的ローコストで建設・維持管理できるため、発電効率に対するコストバランスに優れているのではないのでしょうか。

